

令和3年度 第4回石岡市総合計画審議会 会議録

1 会議の名称

令和3年度 第4回石岡市総合計画審議会

2 開催日時

令和3年10月 18日（月）14時00分から 15時20分まで

3 開催場所

石岡市役所本庁舎 201会議室

4 出席者

18人

5 会議録（要旨）

（1）開会

【事務局】

ただいまより令和3年度第4回石岡市総合計画審議会を開催する。なお本日の出席者は17名で、本審議会条例第6条第2項で規定する定足数を満たしているため、今会議は成立していることをご報告する。また会議については、石岡市総合計画審議会傍聴要綱に基づきまして公開とさせていただきます。それでは次第に沿って進めさせていただきます。初めに馬渡会長よりごあいさつをお願いします。

（2）会長あいさつ

【会長】

円滑な議事運営に努めたい。

【事務局】

ありがとうございました。それではこれ以降の議事については、会長をお願いします。

（3）議事

1) 基本計画について

①「歴史・観光」施策ページについて（資料3）

【会長】

前回は9月で書面開催ということで、安全・安心、都市基盤環境について議題となった。本日は歴史・観光、健康・福祉、その他ということで議題となる。では早速、資料3に基づき歴史・観光施策ページについての説明をお願いします。

【事務局】

（資料について説明）

【会長】

ありがとうございます。本日ご議論いただくのは、この構成でよいのかという確認か。それとも、内容にまで踏み込むのか。

【事務局】

まずは全体の構成についてご議論いただいた上で、内容に関して、それぞれ細かい部分まで踏み込んでご議論をいただければと思う。

【会長】

では切り分けて、まずは歴史・観光については、5つの施策の下で行うということで、こちらの構成について何かご意見はあるか。

（特になし）

【会長】

では、次により具体的に、ここはもっとこうした方がよい点、または数値や事実関係も含めてご意見があればお願いしたい。

【委員】

課題について、歴史と文化財の保存・活用ということで、平成9年に神楽跡地を13億円で購入し、それからイベント広場と、図書館の駐車場となっている。平成18年前後に、合併特例債で当時はその場所に文化施設を建設しようという計画があった。実際にその際に発掘調査や基本計画もできたのだが、その後、小中学校の耐震補強工事に20億円まわしたため、発掘調査もイベント広場で一部はやっているものの、その後できていないという現状である。それを考

えると、課題の部分において、イベント広場の有効活用も含めて、発掘調査的な要素を加えた方がよいと私は思っている。各部署においても、複合文化施設をどこに建てるかに関して、イベント広場なのか、駅前なのかということで、現在議論をしているわけだが、現状としてまだ決まっていないため、イベント広場の活用も含めて記載していただければありがたいなと思っている。

【会長】

宙に浮いた形になっているところがあって、そこをぜひ活用すべきではないかというご意見だった。事務局でぜひご検討いただきたい。

【委員】

スポーツを通じた関係人口の拡大に関連して、これを見ると、運動場は八郷と市内に2か所あり、それについて何ら言及していない。それともう一つ、市北部に法政大学の運動施設が、かなり広大な面積を持ってあるので、利活用みたいなことも考えていただきたい。他のところに書いてあればよいのだが、位置付けを考えてもよいと思った。

【会長】

2点指摘があった。本日は意見をいただくという趣旨であるため、最後に事務局には補足、あるいはその都度挙手していただいた場合にお願ひする。

【委員】

この部分に該当する課題かどうか分からないのだが、歴史・文化財の保存・活用ということで、今現在あるものを活用するために、いろいろな事業がある。例えば4ページでふるさと歴史館・農村資料室と書いてある。ふるさと歴史館が石岡小学校のところにあるが、果たして歴史館といえるのか。いわゆる箱物をここで議論する場であるのかどうかは分からないが、近隣のかすみがうら市や土浦市にある歴史館と比較したら、あまりにも貧弱すぎる。そういったことに関して、予算上の問題ですぐ建てられるのか分からないが、課題としては令和9年までとなっている。この場ではなく、市民会館もそうだが、具体的な内容を示し、目標としては期間の中で何とか捻出するなり何なりみたいなことを具体的に書いていく必要があると感じる。

次に、農村資料室については、それと併設して八郷の支所に図書館が設けられる。本日の新聞にも出ていたが、正式な流れも決定してということで、もう工事が始まって来年の3月にはオープンとなる。農村資料室もあるため、石岡市として誇れるようなことに向けたことも考えて欲しい。どの部分にそれを入

れるのかは分からないが、検討課題なのかなと感じた。

観光の振興の中で、観光協会の体制の強化ということが10ページに出ているが、観光協会の法人化ということで、内部で調査をし、独自の方向が出せるようにというので検討をしている。そういったことも含めた形で、市としてそういった法人化した場合に、きちんとした形で協力をし、達成をどうしていくかということなども今後の対策として必要なのではないかと感じる。どういう形で記述するかは分からないが、お願いしたい。

今年ジオパークとして再認されたが、現状を考えたときに、ジオパークがあるということを知っていても、実際にどういった取り組みがなされているのかについて、あまりにも弱すぎる。観光課・文化振興課が担当となっているが、観光協会としても、ジオパークについては手つかずで、市の取組としても、6市で協働してジオパークをとなっているものの、実質的にはつくば市が取り組んでいるのみで、他のところは具体的な関りが非常に弱い気がする。八郷で筑波山・霞ヶ浦ジオパークの重要な位置付けをしているところでもあるため、もう少しそのあたりを突っ込んだ形で具体的にどうするかの方針が出るとよいと思う。

【会長】

私も少し感じたことだが、例えば10ページでジオパークについて言及があり、ジオパーク推進事業で、筑波山地域ジオパークについて観光・文化・教育等多角的に活用するから人口が増えるとか、因果関係が明確である。ただ、ふるさと歴史館だとか、農村資料室の入館者数については、結果は分かるが、因果関係で、入館者数が増えるから人口が伸びる等、ストーリーをもう少しはつきりさせた方がよいと考える。要するに、原因と結果がもっと明確になるような書き方をすべきだ。そのためにもやはり具体的な施策が必要なのだというご意見だとも思う。そこは改善点なのかなと思うところである。

【委員】

歴史・文化財の保存・活用で、博物館の話も出たが、中長期的にはそういったものが必要だとして、短期的に見た場合に、石岡市には重要な国レベルの文化財があるという話は聞くとしても、実際にどういった文化財があつて、それがどのように保存されているのか、あるいはされていないのか。そのあたりをまずきちんと把握した上で、本当に重要なものであればきちんと管理する必要があると思う。博物館ができるのは、おそらくまだ何年も先になると考えると、本当に大切な文化財を守るという意味では、その保存の仕方も考える必要があると思う。管理の状態の悪いところに置かれていると、せつかくの文化財

を後世に残すことができなくなる可能性がある。私は建築の仕事をやっている関係で、歴史的な建物を見ると、どう見ても環境が整っているとは言えない。特に紙・和紙類等は湿度でカビが生えてしまうと、文化財としての価値が半減してしまうため、とりあえず博物館ができる前に、きちんと管理体制をしていくのと、あとはこういった重要なものがあるのかを把握する必要があると思う。

【会長】

利活用する前に現状の把握というのは非常に重要だが、それが見えにくいというご意見だったかと思う。最後に申し上げようと思っていたのだが、歴史・観光というのはいろいろな分野につながる。例えば、歴史・観光から子どもたちの教育ということで、人材育成にもつながると思う。石岡市の話ではないが、小美玉市の安楽寺跡に大きな石像が建っている。よく見ると後ろに江戸時代のいつ建てられたというのが書いてある。そもそもどうやって運んできたのかとか、その当時の大きな商家・財閥が民間レベルで伊豆から石を持ってきたそう。当時は現在のようにトラックなどはないため、水運だったそう。また今と違って川の形状も違い、曲がりくねっている。明治になってから広くてスッと流すという形に変わった。子どもたちが1体の石像を見ているいろいろなことを調べた際に、伊豆から石を引っ張ってきた。どうやって運んだのだろうかとか、その当時どのような経済状態になっていたのかとか、そこからいろいろなことが学べるわけだ。

ふるさと検定というものがあるが、1体の石像から相当な勉強、学びができるのではないかというのが、今泉前市長などがおっしゃっており、非常に印象に残っている。すなわち、歴史・観光だけで考えるのもよいが、様々なところに連動するため、最終的な議論が終わった後にでもする話かと思うが、ぜひそういった視点も持ちながらやっていただきたい。現状の把握と、どのような効果があるのかという点にまで踏み込み、歴史・観光で完結するのではなく、さらに人材育成や、未来などといったところも考えていただきたいという趣旨だと思う。よろしく願います。

【委員】

1 ページ目に政策目標として、観光入込数が令和元年度で148万人。目標として195万人と出ているが、令和元年で148万人のうちの3分の1の50万人近くがおまつり関連の観光入込客数となっている。おまつりそのものはいわゆる神事、例大祭云々ということで、行政と信仰の問題で制約はあるが、石岡市としておまつりにどのように取り組むかという観点をきちんと持ち市が積極的に把

握し、日本の各地から観光客を呼び込むという大きな施策をきめ細かに出していく必要があると考える。石岡のおまつりは、茨城県、国にとっても大きな要素である。市民のおまつりにしていくことが大事なのではないかという観点から深めたい。

【会長】

石岡のいわばメインコンテンツであるおまつりを、もう少し考えた方がよいという点について、おっしゃる通りだと思う。神事のおまつりを、新たにテクノロジーと掛け合わせる等、要するにコロナで戻るかどうか不透明なところもあるため、例えばネット上で追体験できるなどといったテクノロジーを組み合わせるといいうのもあるだろう。さまざまな可能性がある。また、KPIについて、観光入込客数が何名ということを明確にしている。コロナで観光客数が戻らず、KPIが達成されていないではないかといった際に、どうやってディフェンドするか。コロナのため達成ができない場合に例えば、プランB、つまり他の指標も考えておき、生中継を行い、視聴者数を何名とするという、テクノロジーを活用した代替策等、柔軟に考えた方がよいのではないか。KPIを明確にすればするほど、それに縛られてしまう。発想もそれに縛られた発想しかできなくなってしまうこともあるため、もう少し弾力的なことも可能となるように、考えることができるとうい。

【委員】

石岡市の八郷地区について、里山にある茅葺き民家の風景が私は一番好きなのだが、東京から70km圏内で、近いところにたくさん茅葺き民家の風景があったのだという、時代とともに本当に少なくなっている。茅葺き民家については、90近いお年寄りが命を懸け、一生懸命守っていらっしゃる。認知症になってしまったり、体が動かなくなったり、それでも命を懸けている方がやっている茅葺きの風景を一つでも二つでも残したい。また、市でもバックアップしていただきたい。そういう風景を見るのが好きなお客さんがたくさんいらっしゃる。そのため、自然を何とか守って行ってあげたいし、守ってあげてくれたらなというのが私の希望である。

あとはフィルムコミッション関係で、9月に吉生地区で、岡野ファームというブルーベリーの農園が、「人生の楽園」という30分間の番組で出ていた。石岡市の風景がものすごくきれいに映り、山々の盆地の風景等、皆さんが来たいと思うようなロケーションだった。予告の時点からお客様が殺到している。このところ、柿やみかんやリンゴのテレビ特集をやっているが、フィルムコミッションについて、ロケ等によるPRがものすごく大事だと思う。コロナでフ

イルムコミッションの関係が落ち目になってしまっているが、新聞にもどんどん働き掛けていただき、放映でのPRをしていただいて、もっと石岡市全体の観光が潤うような応援をしてくれたらと思う。

【会長】

今のお話は、12ページに茅葺き屋根の民家についても、明確に記入されているため、しっかりとやるべきだという意見かと思う。保全だけではなく、ブルーベリー農園等は、魅力の活用・創出に非常に重要な点であるといったご指摘をいただいた。

【委員】

疑問に思ったので質問を含めてなのだが、基本施策がまず5つ載っていて、そこに成果指標と基準値、目標というのがある。目標の年度が令和9年度のものがあったり、令和13年度のものがあったりと、年度が違うが、それはどういった意味があるのか。

あと一つが、各施策の中で出されていて、具体的な取り組みを受ける参考指標で、またさらに細かく事業について基準値と目標というものが書かれている。基準値がすべて令和2年度に統一はされているが、令和2年度の実績で載せているのか、それとも令和2年度までの平均的な数値を出しているのか。果たしてこの基準値を令和2年度にしてもよいのかなというところが疑問にある。特に10ページで言うと、首都圏からの田舎体験ツアーのところに関しては、基準値が令和2年度なので0人となっているが、コロナも関係していると思う。これを基準として目標立てをしてよいのか。そのあたりが疑問に思った。計画を立てる上で目標は大事だと思うため、その基準値に付いてもしっかり出していただくとよいと考える。

【会長】

確かにおっしゃる通りである。要するにコロナの前と中も含めて数値を示さなければいけない。あるいは、コロナの時のシミュレーションと、コロナの前の基準で考えることも大切なのではないかということかと思う。一方で、数値に縛られてしまって新たな発想ができなくなることもある。この0というのも少し極端なところがあるため、考え直す必要がある。もちろん理由はあると思うが、ぱっと見て市民はこの数値について「何で」と思う方はいらっしゃると思う。また、年度をいつにするのかというところの指摘もあった。

【事務局】

施策のあるべき将来の姿と成果指標については、基本的には10年間の構想の最終的に将来的な姿をイメージしているが、場合によっては基本計画である市長任期連動で考えると、残任期間の令和6年度まで、さらに次の任期の4年を見据えた令和9年度までを考えている。どのタイミングで取るかについては、ものによって考えていきたい。また、観光入込客数は、基準値が令和元年度で設定しており、やはりコロナの影響もあるため、このあたりを鑑みて元年度を採用している。また、具体的な取り組みにおける参考指標についても、政策目標においては令和2年度が多くなっている。先ほどのご意見を踏まえ、様々な影響を踏まえつつ、調整をしたいと思うが、数字によっては令和3年度を採用するものもある。全体においてばらつきが生じてしまうという実情ではあるが、成果指標それぞれの特徴を見ながら、採用したいと考えている。

【会長】

数値や年度の統一は重要だとは思いますが、ぜひ数値に縛られるだけではなく、そこは柔軟に考える。あるいは選択肢も考慮しながら進めていただきたいと思います。

【委員】

スポーツを通じた関係人口の拡大について、14ページの課題で、「多様なスポーツを通じて、関係人口の拡大につなげていく必要」があると書かれている。サイクリングに関連して、土日にたまたま霞ヶ浦のほうに八郷地区のサイクリングロードを使って行く。霞ヶ浦の周辺の道の駅等というのは、サイクリングをする人が何チームもやってきており、サイクリストに対して非常にサポートがうまくいっている。霞ヶ浦の周辺から八郷の方に向かうと、ぱったり人がいなくなってしまう。やはりこちらに八郷の方まで行けるサイクリングコースが整備されていることがまだ周知されていないところがあるのではないかと。せっかく県としても、サイクリングに力を入れていくということがあるので、八郷もPRをもう少しうまくしてはどうか。八郷まで行くサイクリングコースが分かりづらいため、スポーツをやる人に分かるようなアナウンスとか、周知の仕方もちょっとコメントをいただけるといいかなと思う。

【会長】

より効果的にするためにというアドバイスである。

【委員】

全体的に例えば関連計画の数値が記入されていたりいなかったり、前回は意見を聴取した後で変更したものにはきちんと掲載があったので、指摘があってもなくても、校正の段階でそれは入ってくるものだと思うのだが、文言についても、何か所かこの書き方ではいかがなのかという疑問がある。名称についても、取り組みの名称と、（説明の）文章の中での取り扱いが異なっているのはどうか。省略して記載しているところなどをもう一度見直していただきたい。

加えて9ページの石岡のおまつりの課題については、もう少し検討が必要だと思う。観光客の方と、おまつりを主催する人たち、参加する人たちと、一体になったおまつりというのが伝統的になされていると思う。従って、課題としてここに挙げるべきものなのか。挙げるとすると、もう少し文章のポイントを考えなければならないと感じた。

続いて10ページ、11ページ。筑波山地域ジオパークについて。11ページでジオパークについての説明と、フィルムコミッションの説明が並んでおり、フィルムコミッションについては具体的に石岡市に結び付けて説明がなされているが、ジオパークの方がただジオパークの説明に終わっている。

次に15ページの飛べるまち石岡。最後のところで、ネットで検索してみて、飛べるまち石岡というのが見当たらなかった。これは公に使っている言葉なのか。例えば「日本有数のフライトエリア」ということで、石岡が出てくる。

「飛べるまち」をイメージで使ってしまうとすると、ここに挙げるのは言葉としてはどうかと思った。

【会長】

内容の整合性、また文章の内容が現実とそぐわないのではないのか。そういうことも含めて手厳しい。こういったご指摘が非常に重要なところであるため、いろいろなご意見をいただきたい。

【委員】

今回の計画では、今までと違った歴史というものが観光と結び付けられているというところが大きな違いになってきている。以前にも申し上げたが、国の施策において、歴史資源・文化資源について、文化財と言わず文化資源という言葉方をしており、これを積極的に活用していこうという方向性。文化庁でもいろいろな補助金、例えばウィズコロナに対応した文化資源の高付加価値化促進事業のように、いろいろな補助金を用意して事業を進めているところである。この文化庁・国の動向を踏まえながら、市の事業の方向性も10年間で考

えていくべきだと思う。そういった中で、今回これを読んだが、大体考え方としてはよろしいのではないかと思う。

石岡というのはすごく条件に恵まれている。歴史資源にしても、観光資源にしても。とにかく交通アクセスがいい。逆に言えば、良すぎて通過点になってしまう。これを生かせれば寄ってもらえる。従って、石岡自体を目的地ではなくて、寄ってもらえるようなところから始めるという観点も大事だと思った。歴史で言えば、2ページにあるべき将来の姿として、歴史的資源を周遊できる環境づくりとあるが、この周遊を石岡だけで完結しないで、例えば周辺地域。具体的に言えば舟塚山古墳というのがあるが、これはかすみがうら市の富士見塚古墳、行方市の三昧塚古墳とともに、一連の古墳群の一つである。そういった古墳を巡るようなツアー、古墳ツーリズム、そのような考え方でやったらどうか。一つのサイクリングのコースとしてもいいし、いろいろ展開の方向性がある。

それから、あまり注目されていないが、片野城という中世城郭が八郷にある。これは非常に規模が大きい城であり、石岡市のホームページの中で紹介されている。これなども上曽トンネルが開通すれば、つくばの小田城と片野城と真壁城を結んだ一つの観光ルートとして成立していく。この観点から言えば、やはり片野城、あるいはその他の中世城址の整備に目を付けることも必要である。視点を広域的にすると、まだ市内のそういった歴史的資源が、非常に魅力的なものに、また活かせるものになってくる。

また、石岡市のホームページでは紹介されていないが、歴史の中で非常に重要な中世文書が石岡にゆかりのものとしてある。一つは税所文書という、石岡の国府で作られていた鎌倉初期から南北朝時代という非常に古い文書。それからもう一つは、芹沢文書であり、もともとは行方の芹沢氏が持っている資料。この二つは県の文化財に指定されていて、現在うちの歴史館でお預かりしている資料である。本来は地元の石岡市にあってしかるべきものだが、保存環境といった問題もあり、歴史館でお預かりをしている。本来ならば、そういった地域の資料というのは、地域が保存・活用していくべきだというのが基本的な考え方である。このように整備が進んでいないものについては、お預かりをしている状態である。

それから、ふるさと歴史館があるが、ホームページで面白い展示をやっている。これについては、なかなか優秀な人材が石岡にはいるなど思っている。環境的には気の毒だが企画力はすごいと思う。箱物はもちろん大事だが、その前提はやはり人材をどうやって育成していくのか。つまり、文化財を活用できる人材をどうやって育てていくのか。それを観光と結び付けた観点から見られるような人材をどう育てていくか。これは先ほどフィルムコミッシ

ョンの話もあったが、同じ話である。結局撮影の誘致というのは、人と人のつながりであり、茨城のフィルムコミッションなどもそうだが、実際に個人的に例えば制作会社のディレクターなどと連絡が取れる人を継続的に置いておく。役所の中だとどうしても数年でセクションを移動してしまい、人のつながりが切れてしまう。そうではなくて、特にフィルムコミッションとか、あるいは歴史観光もそうだが、人のつながりを継続的に考えていく必要がある。そういったことも念頭に置かれた方がよろしいのではないか。計画の中にそれが書き込めるかどうかは別次元の話ではあるが、申し上げておきたい。

【会長】

国・県との連携、そしてプロパー人材ということの指摘である。

【委員】

今言われたことと同じようなことだが、やはり人材ということで考えた時に、石岡市の学芸員は全部のセクションで揃っているとは聞いていないため、その強化を図っていくべきではないか。そこを中心としながら進めていくことが大事。学芸員については明確化されているのかよく分からないのだが、そういったこともはっきりするような形にした方がいいのかなと思う。

【委員】

やはり人が最初にある。最近特にそうだが、箱物を作ることを前面に出すと経費の問題で、どこかで反対が絶対起きる。そうではなく、やはり人づくりから始めないとうまくいかない。まずは人が最初ということ。

【会長】

他にいかがか。

【委員】

観光の件について、観光の本を読むと最近必ずポイントとして「食」がある。「食べる」ということが観光にとってとても重要と書かれている。石岡地方にも古くからいろいろな食があると思うが、そういう食も捉えるべきではないか。ぜひ観光の中に食をテーマに入れてはどうかと思う。

【会長】

石岡の食ということをさらに推進してくれということかと思う。

【委員】

今回策定しようとしているものについては、四つの分野、基本構想である。その四つの分野の中にそれぞれ二つずつの政策目標があり、それから八つの政策目標を推進していく。そういう意味で「チャレンジする市役所」という表現がされていると思う。拝見した中で、それぞれの政策目標1～8、市役所の部分を含めて、きっちり区切っていいのかなという箇所と、もう少し政策目標の中でお互いにクロスをしながら、関連していく箇所があるのかなと思う。難しいとは思いますが、例えば情報発信だけの政策目標を掲げたとしても、当然他の政策目標とかなり連携してくる部分が出てくるため、その関連性を表現した方がよろしいのかなと思う。

それから、9月は書面開催のテーマであった都市基盤と環境の中に、駅周辺の整備という項目がある。その中で先ほどご意見があったように、歴史的な部分、石岡市の歴史的背景をこれからも売りとして出していくのであれば、高浜駅周辺整備をもう少し強調すべき。あれほど手つかずの場所というのは、常磐線沿線もないため、上手に手を入れることによって、かなりの集客も図ることができるのではないかと。都市基盤の整備については、そういった部分で力を入れていくべきあり、もう少し掘り下げるとするか、重点項目として入れるべきではないかと思う。

【会長】

政策を独立させる形ではなくて、連動性を持たせろという宿題をいただいた。また高浜という非常に歴史的にも重要な土地であるので、そこも配慮してほしいというご要望である。

②「健康・福祉」施策ページについて（資料4）

【会長】

続きまして二つ目のテーマである健康・福祉について説明をお願いします。

【事務局】

（資料について説明）

【会長】

基本政策が八つあるが、一括してご意見をいただきたい。

【委員】

感染症対策の課題のところの新型コロナウイルスのワクチン接種については掲載が必要なのではないかと思います。

【会長】

これ令和5年までやるということ、計画書自体の耐久性と言うのか。全体を通じての話だと思うので、これはすべて議論が終わった上で、今一度見ていく箇所だと思う。もしかしたら他の点においても、2年、3年とやるべきものなのか、あるいは長期的にやるのかも含めてあろうかと思う。そこは今一度再検証になると思う。

【委員】

基本政策のトップが感染症対策というのはどうなのか。地域医療とか福祉がまずあって、その中の一部分である印象を持った。

【会長】

つまり1と言っているのだから、1丁目1番地なのだろうと。それを感染症対策でいいのかということもある。先ほどご指摘があったが、これを1番目に書く内容なのかというのは再検証すべきところ。これで完成ではないので、検証することになるかと思う。

【委員】

今の関連で感染症ということ言った時に、今コロナであることは間違いのないわけだが、コロナに限らず、5年、10年前にSARS・MARSというのがあった。近々それに代わるようなものがくるかもしれない。そういうことにも対応できるような医療対策という部分での感染症対策ということであれば、いいのではないかと思います。

コロナに限らず、感染症そのもの、パンデミックそのものということ考えていく必要があるということ。

【会長】

自治体の存亡を揺るがしかねないという危機管理上の問題もあるので、一方でこれも大切なのだというご意見である。難しい。非常に慎重に考えていかなければいけない課題が多々ある中でストレスがある話を皆さんに振っているところがあるが、ぜひ思い切った発言も含めてしていただきたい。

【副会長】

地域医療の充実で、分娩できる産科の設置の目標が、令和13年度に1施設とあるが、これは1というのは決まっているわけではないのか。一応目標としてということで1なのか。できればもう少し多くの施設が増えてほしいと思う。

また、健康については、食が大事である。よく子どもの貧困というのが社会でも問題にされている。石岡でも朝食も取らずに学校に行くという子どもさんが多いと聞いている。そういったことも背景として、子ども食堂が行われているが、その一方でいろいろな食品ロスというのが問題にされている。八郷は農業の豊かなところなので、余剰の食料を貧困家庭につなげるようなボランティア活動をもっと充実させてはどうか。石岡市の子どもたちはすべて食で困らないような、そういうことを目指していけるまちづくりというのが、無駄をなくせばできるのではないかと思う。

昨日聞いた話では、あるところではセブンイレブンの食品を市が、貧困の子どもたちの家庭に分けている。知恵を出せばそういう貧困の家庭を救うことができるのではないかと思うのだが、食というのはとても大事なことなので、市が中に入って、やっていただけたら良いのではないかと思った。

【会長】

新たな目標としての産科院については、1ではなくて、より目標は多くした方が良いというご意見。また福祉と言った場合に、通りいっぺんの各市町村と同等ということではなくて、石岡市の地域資源を生かした福祉。石岡市の地域資源を生かした健康ということで、石岡版の健康福祉という、少々大きな宿題ではあるが、そこをやはり考えていくことが、差別化を図るところでもあるし、そこから石岡市での誇りだとか、いろいろな波及効果が生まれる。非常に重要な指摘かと存じますので、ご検討のほどよろしくお願いしたい。

【委員】

施策8の「持続可能な社会保障制度の運営」の成果指標として収納率が掲げられている。題目に対して何か違う指標があった方がいいような感じがする。

【会長】

持続可能な社会保障制度の運営といった時に、もう少し前向きなところがあってもいいのではないか。ここだけ少し性格が違うのではないのかというご指摘。ここだけ書き方が他とは方向性が違うという印象があったということなので、ぜひご検討をいただきたい。

では、最後のその他の基本施策について。これは資料1、資料2、資料5、

資料6、端的に言えば、歴史・観光、健康・福祉以外についても、ご意見があればお願いしたい。あるいは、後ほど事務局にメール、電話等で、ご意見をお寄せいただいても結構である。

【副会長】

健康・福祉分野に関して、今テレビなどでも取り上げられていることだが、女性たちで生理用品が買えない家庭があるということで、生理中は学校に行きたくないとか、働いている女性たちも会社に行きたくないという状況とのこと。トイレに行けばトイレットペーパーがあるのが日本では普通。ゆくゆくは日本全国、これは国がやるべきことだと思うが、トイレットペーパーと同じように生理用品がトイレに常設しておくべきだと思う。市の財政が厳しい中で石岡市にそういうことをやれというのは難しいかもしれない。しかし、生理用品を作っている大きな会社が貧困家庭に対して提供するという話も聞いたことがある。そういうことを考えたら、少しでもそういう人たちを救うことができるのではないか。

【会長】

非常に重要な、なかなか知っているようで知らないようなところもあると思う。ご指摘ありがたい。

【委員】

その他の施策についてということで、資料6の地域文化。協働によるまちづくりの推進ということで、現状と課題が色々ある。八郷の園部地区というところにいるのだが、石岡と八郷が合併して16年経つものの、石岡と八郷のあり方というのは、本来合併した時に話をして、同じような状態を作っていくはずだった。しかしながら、現状として矛盾というのは未だに残っている。区長会などをやっても、八郷の方の運営の仕方と、石岡の方の運営の仕方の違いの中で、矛盾がありつつも、話がなされているということなども、現実問題としてある。また、公民館の問題も出ているが、石岡の公民館の形と、八郷の公民館の形は全く別物になっている。それぞれの特性を生かしながらも、本当に石岡市が一つになっていく上では、話を煮詰めていかなければいけない時期に来ているのではないか。地域でいろいろなことをやっていると、常に感じる。

【会長】

ただいまのご意見は、地域文化に関する話だと思う。今後委員の皆様方におかれては、様々な情報発信、行革等も含めて、いろいろな議論を詰めていただ

くことになる。論点の提起ということで、そろそろ踏み込むべき時期ではないか、いい機会ではないかというご意見である。

【委員】

それぞれの施策頁に関連計画が掲載されており、それは総合計画に基づいているということがわかる。協働参画で行う様々な企画もある。その際、一番の指標になるのが、この総合計画である。総合計画を元にしてそれぞれの個別計画が進むような形で問題提起ができるような、そういう形に総合計画がなっていくといいなと感じた。コロナも今のような状態になり、それぞれの計画が、これから始まっていく段階に来ている。例えば観光計画など、いくつかの計画が走り出す。その元になるのはこの審議会で検討している総合計画であるので、きちんと方向が出せるような形にまとめられるといいなと思う。

【会長】

このような意気込みということで、引き続きよろしくお願ひしたい。本日も皆様方の活発なご議論に感謝する。では議題は以上であり、司会を事務局にお返しする。

(4) 閉会

【事務局】

熱心なご議論に感謝する。以上で第4回総合計画審議会を閉会する。次回審議会は、11月1日月曜日午後2時からを予定している。日程については、改めてまた通知させて頂く。